

冬季研修講座

「家庭学習の導入・やる気を
上げる取り組みせ方」

「家庭学習の導入・やる気を上げる取り組みせ方」をテーマにして冬季研修講座を行いました。伊達市立伊達小学校 藤井 健 先生、登別市立西陵中学校 高橋 孝平 先生、登別市立緑陽中学校 菅原 麻衣 先生、登別市立登別小学校 中村 章人 先生の4名の先生方に実践発表をしていただいた後、参加者の先生方における家庭学習の取組を交流しました。胆振教育研究所のホームページから冬季研修講座のまとめを見ることができますので、是非ご活用ください。

参加者の声

- それぞれの小中学校の取組を知ることができました。
- また、家庭学習の取り組みせ方については、「目標」「見える化」「自己調整力」「教師の声掛け」などのワードが改めて大事であることを再確認できました。
- 子どもたちへの意欲喚起、保護者への啓発、自己管理能力の育成等のヒントをたくさんいただきました。
- 特に、実践の内容だったのでやってみたいと思う内容を得ることができました。



所長挨拶

今年度、本研究所では、胆振の小中学校の先生方に「新たな教師の学びの姿」を実現していただくため、皆様の研修ニーズに合った理論研究、研修講座、調査課題研究に取り組んでまいりました。特に夏季と冬季の研修講座では、胆振管内9市町のみならず、苫小牧、室蘭、留萌管内の先生方にもご参加いただきました。研修では「複線型の授業」や「家庭学習の取り組みせ方」をテーマに、先生方に発表いただき、協議を通じて貴重な意見交換や実践の共有を行うことができました。これにより、管内外の先生方のつながりを深め、教育のさらなる向上へのヒントを得る場となりました。

一方で、教育改革のスピードはますます加速しており、教員の多忙化も深刻化しています。しかし、そんな状況の中でも、教師としての「働きやすさ」と「働きがい」の両立を目指し、子供たちのために力を尽くしておられる先生方の姿勢には心から敬意を表します。

胆振には、優れた教育実践を行っている学校がまだまだたくさんあります。本研究所では「今、学校に求められていることは何か」、「現場が本当に必要としているものは何か」を大切に考え、所員が各市町の学校を訪問する中で、そのような実践を発掘し、広めていくことを目指しております。

胆振教育研究所は、これからも現場の声に耳を傾け、先生方と力を合わせながら、新たな可能性を切り拓いていきたいと考えております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

胆振教育研究所 所長 佐藤 淳 (伊達市立東小学校長)

研究紀要 (242号・243号・244号) を発刊しました

研究紀要 第242号

研究委託校・実践校の紹介 社会教育の実践

令和6年度胆振教育研究所の研究委託校・実践校の研究の概要並びに、社会教育の実践について紹介しています。各校の研究内容や研究の成果、今後に向けての課題などについてまとめました。具体的な実践例や取組を多数掲載しておりますので、本研究紀要を自校の校内研修や授業実践等に役立てていただければ幸いです。



研究紀要 第243号 調査課題研究

特別支援教育に関わる各種連携について



胆振管内における特別支援教育に関わる連携の実態について、アンケートで調査した結果をまとめました。特別支援教育に関わる管内の状況の紹介や、調査を通して見えてきたことや課題、各種連携を効果的に進めるために必要なことなどについて考察しています。各校の特別支援教育の充実のために役立てていただければ幸いです。

研究紀要 第244号 教育理論に関する研究

一人一人の子供を主語にする授業づくり

研究主題「一人一人の子供を主語にする授業づくり」の1年次として、

- ①「一人一人の子供を主語にする授業」とは
 - ②教師主導から子供主体の授業へ ～授業改革の具体～
 - ③教師に求められる資質・能力
- についてまとめています。校内研修や先生方の授業改革の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

